

「地震と防災 身近なことから防災を実践しよう」

中学校対象の防災教育出前講義について

1995年の阪神淡路大震災以後数年は、地震に対する関心は高まっていましたが、震災11年を経過すると、震災を経験した市民から記憶がだんだん消滅しつつあります。

2035年ごろに発生することが予想されています東海、南海、東南海地震及び、都市直下型地震に対して、建物の耐震診断、耐震補強、自主防災組織の活性化など国、市町村がどう対応するかが課題です。

現在の小学生、中学生が今後の防災活動のリーダーになると考え、子供たちに少し防災(減災)の大切さを知って頂きたく、明石工業高等専門学校の授業、市民講座、中学校の出前講座を実施しています。

この講義では、地震はなぜ起こるのか、阪神大震災を事例に被害の様子を写真で説明し、夫々の地震がもつ顔について紹介します。最後に中学生皆さんの自宅の部屋が地震が発生したときに安全かどうか、スケッチして頂き、検証します。

明石工業高等専門学校
建築学科 助教授 中川 肇

地域防災教育「大地震から人命・建物を守るための備えはどうか」

- 実施校 明石市立大蔵中学校
- 対象 中学3年生 177名
- 実施日 平成18年12月8日
- 所要時間 50分
- 講師 明石工業高等専門学校 建築学科 助教授 中川肇
段明石支部長、藤田青年部会長、久納青年副部会長

